

観光社会資本の事例

テーマ	「太陽と花と海」(海洋博覧会地区)、琉球文化の光を観る(首里城地区)	
【施設の状況写真】 海洋博公園(海洋博覧会地区)	首里城公園(首里城地区)	
		
公園の玄関中央ゲートから伊江島を望む風景。	約130年の歳月を経て甦る首里城。今や沖縄を代表する観光施設となっている。	
【施設の利用写真】		
		
海洋博公園で1番人気の沖縄美ら海水族館。黒潮の海大水槽ではジンベエザメやマンタが優雅に回遊し、見ている人に興奮と感動を与えます。	琉球王国最大の儀式であった「冊封儀式」再現イベントを鑑賞する来園者。(首里城公園)	夏に開催されるサマーフェスティバル! サンセットコンサートで盛り上がる来園者。(海洋博公園)
【観光資源としての利用状況】		
<p>海洋博公園は、国内外、老若男女を問わず多くの観光客が訪れ、本部町はもとより沖縄県北部地域への観光振興の発展に大きな効果をもたらしています。当公園1番人気の沖縄美ら海水族館は沖縄の海の素晴らしさ、大切さを体験、体感していただける展示をしています。また、オキちゃん劇場やイルカスタジオでのイルカのショーや季節イベントとしてサマーフェスティバル、美ら海体験祭り、国際洋蘭博などいろいろな催しを開催しており、多くの来園者に利用されています。</p> <p>首里城公園は平成4年度の開園以来、県内外から多くの方が来園し、現在では沖縄の入域観光客数の約半数にあたる方が訪れており、今や沖縄観光の中心施設となっています。</p> <p>城内では琉球王国時代の建築文化の粋を集めた施設はもとより、年間を通じて琉球王朝時代に行われていた儀式の再現イベントや沖縄を代表する伝統芸能等を実施しているほか、南殿内の特別展示室において、琉球文化にまつわる美術・工芸品等の展示を行い、沖縄の歴史・文化の拠点として華麗なる王朝文化の魅力を県内外に広く発信しています。</p>		

テーマ	「太陽と花と海」(海洋博覧会地区)、琉球文化の光を観る(首里城地区)	
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 国営沖縄記念公園</p> <p>所在地 沖縄県国頭郡本部町字石川424番地(海洋博覧会地区) 沖縄県那覇市首里当蔵町三丁目(首里城地区)</p> <p>事業名 国営公園整備事業</p> <p>事業主体 国土交通省</p> <p>事業期間 昭和50年～</p>		
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>観光振興の効果</p> <p>国営沖縄記念公園は、昭和50年に開催された沖縄国際海洋博覧会を記念し、沖縄県北部振興を目的として設置された海洋博覧会地区(海洋博公園)と戦災によって失われた貴重な歴史的文化遺産の復元を目的として設置された首里城地区(首里城公園)の2地区からなる国営公園です。</p> <p>平成16年度は、沖縄県への観光者数が年間約517万人であるのに対し、海洋博覧会地区(海洋博公園)への来園者数は約258万人、首里城地区(首里城公園)への来園者は約246万人と多くの観光客が訪れ観光振興に寄与しています。</p>		
【位置図】	海洋博公園	首里城公園
<p>公園までのご案内 TRANSPORT INFORMATION</p> 		
<p>交通のご案内</p> <p>路線バス利用</p> <p>那覇バスターミナルより20・120・111線、名護バスターミナル下車。乗換で同ターミナルより65・66・70線、記念公園前下車。65・66線は徒歩35分。</p> <p>レンタカー利用(那覇市から約2時間)</p> <p>空港から那覇東バイパス(国道329号)経由で那覇I.Cから沖縄自動車道へ。許田I.Cから国道58号、国道449号、県道84号線、県道114号線を経て海洋博公園へ。</p>		<p>路線バス利用</p> <p>市内線1番、17番・市外線46番に乗車し、首里城公園入口のバス停にて下車。徒歩約5分で守礼門に到着。</p> <p>市内線9番、市外線25番に乗車し、山川バス停にて下車。徒歩約15分で守礼門に到着。</p> <p>モノレール(ゆいレール)</p> <p>首里駅または儀保駅にて下車。徒歩約15分で守礼門に到着。</p>
<p>【関連ホームページ】 国営沖縄記念公園 海洋博覧会地区：http://oki-park.jp/ocean_park/ 国営沖縄記念公園 首里城地区：http://oki-park.jp/shurijo_park/ (財)海洋博記念公園管理財団：http://www.cosmos.ne.jp/zaidan/</p>		